

## 会 議 録

会議の名称	平成27年度第7回 藤岡地域会議
開催日時	平成27年11月24日午後6時40分開会・午後9時28分閉会
開催場所	藤岡総合支所旧議会棟 会議室
出席者氏名	別紙のとおり
欠席者氏名	別紙のとおり
事務局職員職氏名	別紙のとおり
その他出席者等	別紙のとおり
会議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栃木市文化振興計画実施細目（素案）について（意見聴取）</li> <li>・ 栃木市生活排水処理構想（案）パブリックコメント実施について（情報提供）</li> <li>・ まちづくり実働組織の在り方について</li> </ul>
会議の公開又は非公開の別	公開
傍聴人の数	無し
その他必要事項	無し
会議の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
◎会長 ○担当課	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）・栃木市文化振興計画実施細目（素案）について（意見聴取）</p> <p>&lt;説明&gt;</p> <p>担当課に対し、協議事項の説明を求めた。</p> <p>資料に基づいて説明した。</p>
◎会長 ◎A委員 ○担当課 ◎B委員 ○担当課	<p>&lt;質疑・意見&gt;</p> <p>委員に対し、意見を求めた。</p> <p>資料1の92ページ、施策番号⑤に「郷土芸能等の後継者の育成」とあるが、この郷土芸能とは具体的にはどんなことを指しているのか。</p> <p>ここでは和太鼓を指している。</p> <p>施策番号⑤の実績については、文化団体連絡協議会の中に結成された、郷土芸能に関するサークルの活動実績が資料化されたものではないか。</p> <p>実績については、小学校の運動会での演奏等を掲載しているが、この部分については、細目を完成させるまでに各実績を網羅するよう作業を進めるつもりである。</p>
◎A委員 ○担当課	<p>和太鼓に限らず、郷土芸能とは、どのようなものを想定しているのか。</p> <p>お囃子、和太鼓、神社の獅子舞なども含まれると考えている、</p>

◎C委員	私の地域ではお囃子愛好会で小・中学生、高校生対象に、後継者の育成活動をしている。
○担当課	郷土芸能では、後継者不足が課題になっている。ぜひ後継者育成の活動を継続していただきたいし、支援もしていきたいと考えている。
◎D委員	資料1の90ページ、施策番号①の「文化団体間の交流の活発化」について、実績が何も上がらなかった原因はどこにあると考えているのか。
○担当課	この部分については、藤岡地域の文化団体連絡協議会に再度確認し、記載できる実績があれば記載するようにしたい。
◎E委員	資料1の90ページ、施策番号③に「文化資源の掘り起こし」とあるが、農業関係の産業とも絡めてこの計画を進めていただきたい。それから、文化資源について、古くからある道具類などについても、文化資源として検討しているのか。
○担当課	文化資源については、この後説明することとさせていただき、農業関係の機材類については、歴史民俗資料館が収集・保管をしている。ただし、既に収集されているものについては、収集対象とならないと考えている。
◎B委員	藤岡地域の歴史に関して、記念碑を建立するかという案件が発生した場合、記念碑については、文化財として捉えられるのか。
○担当課	文化財という言葉は、広い意味を持つ。記念碑そのものを市指定の文化財とするのは難しいが、地域の文化財としての取り扱いをしていただければ良いと考える。文化振興計画の中では、市指定文化財のみならず地域市民の貴重な文化財の登録も検討する項目があるため、今後、懇談会などで検討していきたいと考えている。
◎F委員	計画の基本目標にある文化芸術活動の推進は、非常に重要と考える。市の文化発展のためには、若者に文化に目覚めてもらうよう、刺激を与えるような施策を進めていただきたい。合併後5年が経過した栃木市にとって、大きなテーマは一体感の創出であるが、文化がその中心的要素となる。ぜひ力を入れていただくよう要望したい。
◎G委員	文化資源の掘り起こしとは、どのようなものを調査するのか。どのような機関で選定されるのか。特に、藤岡地域は指定文化財が少ないということだが、旧谷中村関係で指定に該当するものがあるのではないかと考えていた。
○担当課	<追加説明> 各地域における文化資源の掘り起こしについて、資料に基づいて説明した。
◎会長	委員に対し、意見を求めた。
◎A委員	地域ごとに文化財の調査を行うとのことだが、以前、市の総合計画策定懇談会において、各地域の文化財等について調査があり、藤岡町地域協議会において選定したと記憶しているが、それを踏まえての調査計画なのか。その時の資料を活用する考えはないのか。
◎H委員	藤岡町地域協議会からの推薦により市の総合計画策定懇談会に参加した際に、各地域で残したい文化資源ということで、地域協議会において検討し、岩崎醤油倉庫や赤麻屋旅館などを挙げた経緯がある。改めて地域会議委員に調査を依頼す

○担当課	<p>るということだが、委員だけでなく、広く市民に問うても良いのでは無いかと考える。</p> <p>総合計画策定の際に、そのような調査があったことを認識していなかったため、担当課に確認し、参考にとすることとしたい。また、市民への問いかけについても積極的にしていきたいと考えている。</p>
◎B委員	<p>藤岡地域の主要な文化財を網羅した書籍が、ある古文書会により作成されているので参考にすべきと思う。</p>
○担当課 ◎会長	<p>確認し、参考にとすることとしたい。</p> <p>では、さまざまに発言はあったが、概ね了解ということで、この文化振興計画実施細目（素案）については照会どおり了解してよろしいか。</p>
◎I委員 ◎会長	<p>蛭沼に郷土の踊りをしている郷土芸能団体があり、取り上げていただきたいので、後ほど報告させていただきたい。</p> <p>この意見聴取に対する回答としては、文化資源の掘り起こしも含め自由な内容でよろしいのか。</p>
○事務局	<p>本件は、意見聴取案件として付議されており、意見聴取とは、提案された案件に対して是非の判断を求めるものである。</p>
◎会長	<p>&lt;採決&gt;</p> <p>これまで出された意見については、素案自体を否として修正を求めるものではなかった。栃木市文化振興計画実施細目（素案）について、了承としてよろしいか。</p>
◎会長	<p>— 異議なしの声 —</p> <p>では、了承の旨回答することとする。</p>
	<p>(2) 栃木市生活排水処理構想（案）パブリックコメント実施について （情報提供）</p>
◎会長 ○事務局	<p>&lt;説明&gt;</p> <p>事務局に対し、協議事項の説明を求めた。</p> <p>資料に基づいて説明した。</p>
	<p>— 質疑等なし —</p>
◎会長 ○事務局	<p>(3) まちづくり実働組織の在り方について</p> <p>事務局に対し、協議事項の説明を求めた。</p> <p>資料に基づいて説明した。</p>
◎会長	<p>&lt;質疑・意見&gt;</p> <p>今後、地域会議と実働組織が連携していき、地域会議からは市へ意見提言することが最終的な目標になってくると考える。藤岡地域において、どのようにまちづくり実働組織を立ち上げていくかについて、先日正副会長と正副部会長で打合</p>

	<p>せを行った。その中で、先の見通しは立たないが、まず、各団体に趣旨を説明し、参加団体を募るよう動き出しをしてみる、という話になった。事務局から説明があったように、まちづくり実働組織には認定条件がいくつかある訳だが、皆さんからご意見をいただきたい。</p>
◎F 委員	<p>事務局の説明で、まちづくり実働組織設立までのプロセスが示されたが、やる気のある人たちに手を挙げてもらうためには、なぜ新たな地域自治制度が始まったのか、というところからの説明が必要である。その部分について、事務局から説明をもらいたい。</p>
○事務局	<p>今年度から、市内8地域において地域自治を推進するため地域会議とまちづくり実働組織を大きな柱とする新たな地域自治制度が始まっている。栃木市は、合併により市域が拡大した。町に比べれば予算規模は大きい、人口16万人という規模から考えると財政状況は厳しい。そのため、将来を見据え、行政から各地域に対し一方的に同じ事業を展開するのではなく、各地域における課題や要望について地域で話し合っ出していただき、地域と行政がそれぞれに地域づくりを担っていこう、という新しい考え方が基本にある。</p>
◎F 委員	<p>合併後、市の施策により進んでいく地域は進んでいく一方で、ある地域は遅れていくという不均衡が生じないよう、地域の住民自らが手を挙げて行動を起こしていこう、ということも新たな地域自治制度の大きな目的にあると思う。また、国は道州制というビジョンをもっているように、新しい地方自治の動きの中で、全国に存在する合併によりつくられた新しい市はどこも苦しんでいる。それは、従来、行政が各施策を行い地方自治が進められてきたが、今後は自立して地方自治を進めていこうというやり方となる。その方法に慣れていないからである。これからのまちづくり実働組織をつくっていくプロセスの中で、協力をしていくことが我々の務めかと考える。</p>
◎E 委員	<p>資料のまちづくり実働組織のモデル団体の例を見ると、皆川地区街づくり協議会では、イベントが主な活動となっているようだが、このイベントは、事前に市や行政団体が主催していたものを継承したものなのか、新規に街づくり協議会において始めたものなのか。また、イベントが目的ではなく、まちづくりが目的の組織なのか。</p>
○事務局	<p>皆川地区街づくり協議会は、地域資源を独自に活用して、市民自ら活動をしている団体であり、市が実施していたイベントを継承しているものではない。皆川城趾まつりは、イベントの企画から住民自らが実施している。皆川地区には皆川公民館があり、公民館も一緒に活動している部分もある。また、この協議会は、まちづくりが目的の組織である。</p>
◎会長	<p>モデル例を見ると、自治会連合会が主になっているようだ。</p>
◎C 委員	<p>皆川の祭りに招待されて行ったことがあるが、地域の自治会連合会の方が主になって実施していた。また、街づくり協議会では会費を取っているのが気になる。</p>
◎会長	<p>認定まちづくり実働組織には、最大でも自己資金の二分の一しか補助されない。ある程度、会費などの予算も考えながら組織をイメージしていかないとなら</p>

◎H委員	<p>ない。</p> <p>まちづくり実働組織の設立上の課題は、会費になると思う。栃木地域の街づくり協議会の例を見ると、ほとんどが自治会の組織を使って会費を徴収しているように思う。藤岡地域において、4地区の自治会連合会単位で組織をつくるのも難しい。また、この指生まれ方式で集まった各団体から、本来の団体の活動目的のほかに、まちづくりの目的で会費をいただくのも、また難しいことだ。</p>
◎会長	<p>確かに、会費を徴収している団体という、自治会のほかにはないのかもしれない。</p>
○事務局	<p>皆川・吹上・寺尾の街づくり協議会は、平成19年に設立されてから、一切市からの補助金は受けずに自ら財源を確保して活動してきている。新たな地域自治制度が始まり、市から補助金が出るようになるので、この三つの協議会には好意的に受け止められていると思う。一方で、我々のような後発の地域は、初めから補助金がもらえ、補助の倍額の事業ができるが、会費などの自主財源の確保については、地域にとって経験が無いことなので心配される場所でもある。</p>
◎会長	<p>どのように実働組織を立ち上げたら良いか。会費などの財源確保の問題もあり、正副部会長会議の中では、取りあえず動いてみようという雰囲気だった。まずは、藤岡地域の団体に声をかけ、藤岡地域のまちづくりの具体的な内容、目標、あるいは夢のようなものを作り、取りあえず説明会を開く。そこでどのような意見が出されるかは未知だが、その後、さらに詳しい説明をしていき、最終的にまちづくり実働組織が出来れば良い。説明会の場では、具体的な形が出来なくても、ある程度方向性が見えてくるのかなと思う。</p>
◎E委員	<p>まちづくり実働組織同士、活動区域が重なってはならないという条件があるということだが、皆川地区のまちづくりの例でいうと、どのようなことになるのか。</p>
◎J委員	<p>栃木西部地域の皆川・吹上・寺尾地区は、支部単位で体育祭を開催するなど、旧来から自治会連合会の組織が非常に強い地区である。平成19年という早い時期から街づくり協議会を立ち上げ、自治会からの会費をもらえるというのは、そのような強固な組織があってこそのことである。そのように、自治会のまとまりが非常に強い地域を参考にするのは、藤岡地域としては難しいだろう。</p>
◎C委員	<p>赤麻地区の例では、運動会の開催に際し、各戸何百円ということで負担していただいている。栃木地域で地区ごとにまちづくりに取り組んでいる状況を見ると、藤岡地域のまちづくり実働組織は地区ごとになるのかなと感じている。</p>
○事務局	<p>先ほどご質問があった、「活動区域が重ならないこと」とは、まちづくりというのは、あくまでも地域自らが取り組んでいくべきとの前提がある。例えば、A地区のまちづくりに、A地区の組織だけでなく、B地区の組織も取り組むことになると活動区域が重複してしまう。皆川と吹上地区は、それぞれに真っ先に始めたが、活動区域は重なっていない。藤岡地域で一つの組織として取り組むことにすれば、藤岡地域の中で活動するにあたり、区域の重複の問題は起きないことになる。栃木西部地域の皆川・吹上・寺尾の各地区は、今のところ独立して活動している。街づくり協議会を合併しようという話も後々には出来てくるかもしれない。</p>

◎H委員	<p>いが、地区ごとに強い結束を保ってきた歴史的な経緯を考えるとそれも難しい。藤岡地域で一つとして取り組む方策を探るか、旧村単位の4地区ごとに取り組むか、メリットとデメリットを勘案しながら検討すべきと考える。</p> <p>実働組織の構成者は、藤岡内の団体と個人である。資料にある三十数団体に案内を出し、我々も説明会に同席し、趣旨とともに我々の情熱を訴えるべきだと思う。たとえ最終的に手を挙げて賛同いただいた組織が少数であっても、そこから活動を始めて、徐々に参加団体を増やしていくという方法がもっとも現実的だと考える。</p>
◎会長	<p>時間がかかることなので、本日は、動き出しの方向性を決めていきたいと思う。まず、地域内の団体向けに説明会を開催する。藤岡地域の実働組織を一つにするのか、二つ三つにするのかの検討は、それからでも遅くないと思う。団体対象に説明会を開き、地域会議委員も同席して趣旨を説明し、参加していただける団体からスタートしてみる。最終的にまちづくり実働組織が立ち上がるかはわからないが、まずは、説明会という形で動き出すことによって、藤岡の皆さんの、まちづくりに対する意見もつかむことができるから決して無駄ではないと思う。そういう方向でよろしいか。</p> <p>— 異議なしの声 —</p>
◎会長	<p>それでは、組織の立ち上げには時間はかかるが、各団体にご案内をして説明会を開くこととする。資料には、藤岡地域内の団体が40近くあるが、目を通していただいて、他に団体をご存じの方は、後日でも良いので連絡していただきたい。</p>
◎H委員	<p>個人でも参加可能である。情熱を持っている個人の方もいるかもしれない。藤岡地域会議だよりでも広報紙等でも良いので、この実働組織の組織化について一般の方にも呼びかけるべきである。</p>
◎F委員	<p>広報すべきというのは分かるのだが、年度当初には、広報誌にこの制度についての記事は載せている。また、ふれあいトークでも触れていることであり、この話題は市民には届いているはずである。事務局に対し、どこかの団体が手を挙げているかと聞いたが、まだ一件も無いという話だった。これからまたPRしようとするのはいかがなものか。</p>
◎H委員	<p>実働組織を作るにあたって、団体宛に案内を出したらどうかという話になったが、個人に対しても説明会への参加を呼びかけるべきだ。今まで手を挙げる団体が無かったからもう無いだろうと、無いことを前提にやったら何も進まないだろう。</p>
◎F委員	<p>広報をするのも良いのだが、団体宛に個別の通知を出して説明会を行い、そして市民個人宛に呼びかけるという話となると、広報誌で既に周知されていることもあるので、タイミング的にどうかという疑問がある。事務局はどう考えるか。</p>
○事務局	<p>議論に口を挟むようだが、今現在、まちづくり実働組織の在り方については何も方向性を見出していない状態であるが、先に個人を含めた団体などへの説明会という形で話が進んでいるように見える。地域内の団体に呼びかけ、集まった</p>

◎会長	<p>方々との間でまちづくり実働組織の在り方について、活動区域は藤岡地域で一つが良いか、小学校区ごとが良いか、というレベルまで協議するという事か。</p> <p>先ほども述べたが、組織の在り方の中で活動区域の部分については、説明会を踏まえて再度検討すれば良いと考える。</p>
◎H委員	<p>各団体に対しては、単に資料を送って、この指止まれで集まった人たちでやるのは近道かもしれないが、書類だけでなく言葉で訴えなければ人は集まって来ないのではないのか。実働組織には、団体だけではなく個人での参加も認められているので、個人の方にも参加してもらえそうな情報を流すべきだと思う。今まで実働組織に手を挙げてくださいという案内を出したのか。制度ができたという広報はしたかもしれないが、まちづくり実働組織への参加は募ったのか。</p>
○事務局	<p>制度説明は行った。参加を募るということは、まさに今の議論を受けてこれからの話となる。</p>
◎B委員	<p>藤岡地域の団体への趣旨説明を行う際、個人的な参加も可能であるとの話は出来るだろうが、まずは参加していただける団体の方々に説明すべきだと思う。また、例えば、自治会となると自治会だけで全部網羅してしまう。市が設計したまちづくり実働組織には、自治会以外のその他の団体が色々重なり合っているという形が想定されているので、自治会をあまり前面に出してしまうと、仕事はやりやすいが他の団体が入ってこなくなるおそれがある。やはり、資料に出ている各団体に対しては、十分に説明して趣旨を徹底させないとまちづくり実働組織はなかなか立ち上がっていかないだろう。</p>
◎I委員	<p>資料には、女性団体に関連する団体が記載されている。農業団体、商業団体など各団体に私たち女性団体のメンバーがいるので、団体宛に説明会のご案内を出した際には、私は、自分の団体のメンバーにも説明をして参加していただこうと考えていた。各団体にご案内を届けた後は、その後押しを私たち委員が行うということ。個人への呼びかけの件にも賛成である。</p>
◎D委員	<p>まちづくり実働組織の在り方というところで、藤岡地域内の団体は、地域全体を対象とした活動をしている団体が多い。その団体が実働組織に参加するメリットというのは、共同で何か大きいことをやるというスケールメリットだと思うので、組織の活動区域というのは藤岡地域全体が適当なのかと認識していた。地区割りになると、あまり参加するメリットを感じないのではと思う。</p>
◎会長	<p>活動区域は重なってはいけないという制約の中で、先ほど、活動区域については参加を希望する団体が決まってから検討すれば良いと申し上げたが、私個人的な意見ではあるが、最終的に藤岡地域は一つのまちづくり実働組織が適当なのではないかと考えている。方向性としては、各団体・個人を対象に、通知や広報紙等で説明会の案内を行う。ある団体に関係する団体等があれば、さらに説明して参加を呼びかけていくというように根気強く取り組まないとならない。三つ四つの団体が集まれば、そこで取りあえず組織を立ち上げ、魅力を感じるような事業を行うことで他の団体も入ってくるだろう。いきなり大きなものを作らなくても良い。各団体に連絡するほか、個人宛にも何らかの方法で情報を伝えるというこ</p>

<p>◎F 委員</p>	<p>とで説明会を開催することとする。</p> <p>この地域会議として、実働組織の在り方ということについて、一つは藤岡地域全体で一つの組織ということイメージした。事務局としては、組織の在り方をどこまで具体的に求めているのか。このようにまとめてもらいたいという例がないとまとまらない。また、これからの組織の作り方、進め方についても説明願う。</p>
<p>○事務局</p>	<p>活動区域について、藤岡地域には、自治会連合会を除くと他の地域にある様な何々団体連絡協議会の様な地域を網羅するような団体が無く、個別での活動か地区毎の活動団体も見受けられるが数が少ない。したがって、実働組織は藤岡地域で一つと考えていた。</p>
<p>◎F 委員</p>	<p>スケールが在り方の一つとしてある。その他に在り方として何か検討すべきことがあるか。</p>
<p>○事務局</p>	<p>実働組織の役割については、ご説明したとおりであり、どの様な課題について実働組織に取り組んでもらうかについて、検討するのはこの地域会議の場であると考えていた。今後の手順は、各種団体と地域会議の部会、あるいは地域会議本体との意見交換会あるいは説明会を想定している。これについても、各団体の活動分野毎に開催するか、個別で開くのかなどを議論していただき、説明会に進んでいければと考えている。まずは、組織の在り方について一つの方向性を見出した後、広く個人の参加を求める様な形で説明会への参加を呼びかけるのが良いのかと考えていた。時間がかかってでも前向きにやっていたら、資料に記載のスケジュールから多少遅れても仕方ないのでは、という考えでいる。</p>
<p>◎F 委員</p>	<p>組織の在り方といっても定型的なものはないのではないか。我々の地域会議の中で共有できるような、実働組織はこうあるべきだというものを作るべきだと求めている訳ではないのか。</p>
<p>○事務局</p>	<p>おっしゃるとおりであり、本日ご提示した資料では、まちづくり実働組織の在り方についての検討項目を挙げるに留まっている。それについて、地域会議の場で時間をかけてご協議いただくものと考えていた。栃木中央地域会議の会議録を資料として用意したが、事務局がイメージしているのは、栃木中央地域会議の会議録に記載されたような協議の方法であり、資料もその流れで作ってある。</p>
<p>◎F 委員</p>	<p>本日の会議は、どのように締めくくれば良いのか。</p>
<p>◎A 委員</p>	<p>団体と事務局が出て説明会をやるということが結論だ。広報誌で制度説明をしているとはいえども、関心のある方でさえ理解できていない方が多いと思う。最終的にはこの地域会議のメンバーが中心になって一つ二つの団体を作る形になるのではないかと。ただ、他にやりたいという団体などが現れる可能性もある。その場合、活動区域の方向性として、藤岡地域で一つではなく二つに分かれた場合はそれで良いのか、ということを決めておかなければいけない。</p>
<p>◎会長</p>	<p>本当に未知なものであるから、まずは動いてみることだ。それから色々と練っても遅くないのではないかと。先ほども、委員の中から、個人的に参加を呼びかけることを考えているという話も出た。具体的な行動の積み重ねによって、藤岡地域の市民の方、団体の方がまちづくりについてどう考えているのかを聞くことも</p>



	<p>できるので、それだけでも意味があるだろう。最終的に実働組織ができなければ、それなりにまた検討していけば良い。</p>
◎C委員	<p>それで良いのではないか。それでなくてはスタートできない。どんな事業に取り組むのか、というところまで掘り下げて訴えなくては賛同を得ることはできない。会長がおっしゃるとおり、いくつかの団体からでもスタートする形でなくては始まらない。</p>
◎会長	<p>藤岡地域会議の趣旨だけをきちんと伝え、皆さんの応援を得て説明会を開く。また、個人の方にも何かの方法で周知する。とりあえず動いていきたい。</p>
◎A委員	<p>幸い、この地域会議のメンバーは各団体の代表で出てきているので、そのメンバーによって進んでいくかもしれない。</p>
◎C委員	<p>例えば、遊水地のゴミ拾いウォーキングでは、藤岡で一つとなり、遊水地を含まない他の地区からも個人で参加している。</p>
◎A委員	<p>テーマを先に決めるか、参加団体が決まってからテーマを決めるかについても、先日の正副部会長会議で話し合った。テーマを先に決め、それに賛同する団体で組織を作れば早いのだろうが、地域会議でテーマを予め決めてしまうのは好ましくないのではないかという話になった。</p>
◎会長	<p>地域会議としての方向性だけは明確にして、団体等に案内を出して説明会を開催するという方向で良いか。</p>
	<p>— 了承 —</p>
◎会長	<p>具体的内容を決めなくてはいけないという時には、正副部会に臨時的に集まっていたくことも数多くあると思う。その時はよろしく願います。また、その会議で決定したことに関しては、必ずこの全体会議で最終的に決を採ることとする。</p>
○事務局	<p>一つ確認させていただきたい。まちづくり実働組織の在り方の要素の一つとしての活動区域に関しては、藤岡地域で一つの組織を目指すという考え方でよろしいのか。また、各団体との説明会の話が合ったが、意見交換会と捉えて良いか。</p>
◎会長	<p>そのとおりである。</p>
○A委員	<p>意見交換会の日程等は事務局に決めてもらうのか。</p>
◎会長	<p>詳細な点は、我々正副会長又は正副部会長を含めて決定することとする。</p>
○事務局	<p>先ほど、資料として用意した藤岡地域の団体一覧を見ていただいたが、委員の皆さんから追加した方が良いという団体があれば、12月4日（金）までに事務局に連絡いただきたい。</p>
	<p>— 了承 —</p>
◎会長	<p>では、(3)のまちづくり実働組織の在り方についての協議を終了する。</p>
	<p>(4) その他</p>
◎会長	<p>委員に対し、その他の協議事項の有無について確認した。 意見等が無いため、議事の終了により、以降は事務局が進行する旨を述べた。</p>

<p>◎事務局</p>	<p>4 その他 (事務局から)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤岡地域会議だより第2号の発行について</li> <li>・藤岡地域会議懇親会の残金の取り扱いについて</li> </ul> <p>以上2点について、連絡を行った。</p> <p>次回会議は、12月22日(火)午後6時30分から開催することを連絡した。</p>
<p>◎事務局</p>	<p>5 閉会</p> <p>午後9時28分をもって第7回藤岡地域会議を閉会する旨を宣言した。</p>

別紙 出席者及び事務局職員

出席者（委員）

会 長	小曾根 慎 一	副会長	田 中 廣
委 員	飯 塚 俊	委 員	池 田 昇
委 員	石 川 悦 史	委 員	小笠原 義 仁
委 員	斎 藤 久 美	委 員	田 熊 豊 和
委 員	田 村 孝 子	委 員	酒 井 一 則
委 員	山士家 光 幸	委 員	萩 原 繁
委 員	町 田 佳 子		

欠席者（委員）

委 員	井 岡 治	委 員	毛 塚 麻由美
委 員	福 地 智 子		

出席者（事務局職員）

藤岡総合支所

田 中 徹（藤岡総合支所長）

（藤岡地域まちづくりセンター）

飯 塚 勝（地域まちづくり課長）

亀 田 ミユキ（同 主査）

山 市 進（同 主幹）

五十畑 文 寛（同 主査）

出席者（担当課）

教育委員会事務局

大 出 光 一（文化課長）

金 子 真 也（同 主事）